

2023.5

東北学院大学

2023 年度 地域別学校ボランティア 活動の手引き



教職課程センター

① 学習支援ボランティアの意義

東日本大震災からすでに12年が経過しました。私たちの多くは震災前の日常を取り戻しているようにみえますが、国の支援を受けて震災の年からはじまった「学び支援コーディネーター等配置事業」（宮城県教育委員会義務教育課）では、次のような報告が挙げられていました。

「地域や学校と連携して、児童生徒が地域とかかわりながら安心して学習に取り組むことのできる学習環境を整備していく。また家庭学習の習慣形成や学ぶ意欲の向上によって学力の底上げを図り、宮城の復興を担う人材を地域ぐるみで育てていく。」

2020年度で上記「学び支援コーディネーター等配置事業」（仙台市以外の市町村で行う学習支援ボランティア）は事業として終了いたしました。ボランティアを必要としている学校、児童生徒は依然として存在すると予想されることから、2021年度よりは本学独自の「地域別学校ボランティア」として活動を継続しています。

震災に起因するものであれ、その他の経済格差に起因するものであれ、教材も教育環境も不十分な中で、家庭学習の習慣も身につけていない子どもたちがたくさんいます。学びの機会が適切な環境の下で十分に与えられないということは、今この時だけの問題ではなく、何年か先の子どもたちの人生にまでも大きな影響を与えかねません。学びが十分な環境でできなかったことで、学ぶこと進学することに対する意欲を無くしてしまう子どもたちもいるかもしれません。学びが足りなかったことで、人生の選択肢が狭まってしまうこともあり得るでしょう。けれども、もし教材や教室が足りなくても、傍で寄り添って一生懸命教えてくれる誰かがいたらどうでしょう。担任の先生は他の子のことで手一杯だったとしても、代わりに話を聞いてくれる、わからないところを教えてくれる、一緒に考えてくれる誰かがいてくれたらどうでしょう。そのことが、教材以上の、教室以上の、学びへのひいては生きることへの動機づけには、大きな糧となるのです。

ボランティアとは、そもそも自らの生活や自分自身を犠牲にしてまで行うべきものではありません。ただ、自分の生活に少しでも時間的・経済的余裕があるとすれば、子どもたちの学びを、そして生きる力を支えるボランティアに参加してみることは、皆さん自身にとっても、大きな意義があると思います。

ボランティア精神における「人を助ける」ということは、困っている人に手を貸すこと

で、その困っている人が欲求を満たしたり、成長したりすることを目的としているものですが、副次的な作用が生じるのです。「人を助ける」ことで、私たちはその困っている人にとって「必要な人」となります。身内や親密な誰か以外の他者に、必要とされる喜びを経験することは、おそらく例外なく人に自信を与え、「生き甲斐」や「自分の存在意義」を感じるきっかけを与えてくれることでしょう。

また、教員を志望する学生である皆さんにとっては、自らの成長のための得難い機会となるでしょう。学生ボランティアという立場、いわば第三者の立場で子どもたちと接し、教員と接することで、子どもたちへの接し方、留意すべき点等について、教員になる前に学んでおくことが可能となるでしょう。学校現場で活動し、肌で感じなければ得られない経験・知識というものがあります。そして、そういう経験こそが、皆さんにとって生きた知識や知恵となっていきます。ぜひ、積極的に参加してみてください。

② 地域別学校ボランティアの情報提供

「学び支援コーディネーター等配置事業」（宮城県教育委員会義務教育課）

2011年度より開始された上記の事業は、宮城県内の児童生徒の学力向上を支援する活動であり、事業に協力する大学は、県内の市町村教育委員会から依頼される各種の学習支援（授業期間の平日を含む）に対して「**学び支援員**」を派遣する形で行われてきました。

しかしながら、2021年度からは宮城県で上記の事業が終了したことにより、本学と各市町村（仙台市を除く）や各学校との個別の募集・派遣といった形に変わり、名称も「地域別学校ボランティア」となっています。

活動は小・中学校の夏休みや冬休みの長期休業中に行われるものがほとんどです。

大学に各市町村教育委員会、小・中学校からボランティアの募集が届きましたら、その都度 manaba folio でお知らせいたします。

なお、地域別学校ボランティアの活動に対しては、交通費・謝金が支払われる場合もあります。（各地区の教育委員会で内容が変わります）。

③ 参加条件

下記の条件を充たし、守れる場合のみ参加が認められます。

- 本学の教職課程を履修する1年生～4年生、大学院生
- 服装はボランティア依頼校の要請に従うこと。華美な服装、だらしなく見える服装（腰パン、サンダル履き等）は避け、児童生徒と接しやすい活動的な服装にしましょう。

- ・明るすぎる髪色やアクセサリ類は禁止とします。児童生徒に好ましくない刺激を与えないためです。特にピアスや長い爪は児童生徒はもちろん、自分にとっても危険です。
- ・児童生徒のメールアドレス・携帯番号等を聞かないこと。児童生徒から聞かれても絶対に教えないこと。LINEの交換等ももちろんしないこと。
- ・活動を通じて知ることになった児童生徒の個人情報は絶対に他言しないこと。また、画像も含めてSNSへアップロードしないこと。大変な問題になります。

④登録のための手続き

登録用紙の提出：必要事項を丁寧に記入

- ・「仙台市学生サポートスタッフ」に登録している学生は地域別学校ボランティアも登録としますので、改めて登録用紙を提出する必要はありません。
- ・地域別学校ボランティアのみ参加希望の学生は、土樋キャンパス教職課程センターへ登録用紙を提出してください。（メールまたは持参）

*ボランティア保険加入手続きは、基本的には該当の市町村教育委員会が行いますが、念のため、実施前に確認をしてください。

⑤連絡方法と活動の流れ

- ・ボランティアの募集が大学へ届きましたら、manaba folio に掲載します。
- ・参加したい場合は、教職課程センターへメールで申し込んでください。
教職課程センターとのメールの送受信は大学が配布しているメールアドレス
([s 学生番号@g.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:s学生番号@g.tohoku-gakuin.ac.jp)) を使用することとします。
- ・活動希望申込は、教職課程センターから募集先へ送ります。活動が決定するとボランティア校から皆さんへ直接連絡が入ります。その際、打ち合わせの日時を調整してください。（電話で打ち合わせが終了する場合があります。）
- ・打ち合わせでは、活動内容・集合場所・時間・交通手段・ボランティア時の服装・保険の加入、その他の注意事項を十分に確認して活動を開始してください。
- ★ 約束したボランティア活動は無断で休まないこと。ボランティアを依頼した学校も子どもたちも皆さんを待っています。やむを得ず休む場合には、速やかにボランティアを行う学校と下記の連絡先までご連絡下さい。

*土樋教職課程センター メール：ksshien@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

電話：022-264-6397

【活動が終了したら】

ボランティア活動終了後は、所定の活動報告書を土樋キャンパス教職課程センターまで（メールか持参）必ず提出してください。なお、提出していただいた報告書は教職課程センター活動報告集に匿名で掲載することがあります。

⑥その他

- ボランティア先が小学校の場合は、科目を問わず質問に答えることとなりますが、中学校において教員の授業補助を行うような場合には、教科が指定されていることがあります。募集条件をよく確認しましょう。
- ボランティア先で、事故がおきたり、困ったことがあったときには、すぐ当該校の教員に報告してください。その際、教職課程センターにも連絡するのを忘れないこと。ボランティア活動について相談したいことがあった場合には、遠慮なく土樋教職課程センターに連絡してください。センター所員が随時対応します。

ボランティアの持ち物は？

- ① 筆記用具（赤ペン・青ペン）
 - ② 上履き
 - ③ メモ帳
- （必要に応じて）教科書・参考書・地図



この他にも、仙台市内小・中学校での
学習支援ボランティア（学生サポート
スタッフ）も実施しています。
興味のある学生は、こちらにも登録して
参加してみませんか？

詳しいことを聞きたい方は、教職課程センターまで
ご連絡下さい。